

## 茶の湯のある日常を

表千家家元

猶有齋 千 宗左

四月から出されていた緊急事態宣言が全国的に解除になりました。いろいろなことが制限され、不安や不自由が付きまとった日々でしたが、事態が良い方向に進んだことをまずは素直に喜びたいと思います。

しかし、決して以前と同じ日常が戻ったわけではありません。人と人との間には「ソーシャルディスタンス」という名の目に見えない大きな壁が存在します。また人が集うことにもいろいろな制約があります。また当面は新型コロナウイルスを意識しながらの生活が続くでしょう。

この数か月間、テレワークやリモート飲み会といった単語を耳にする機会が増えました。働き方や人と人とのつながりに新たな広がり生まれ、多角化した感があります。これらはこれからの社会で必要なツールとして認知され、普及が進むことでしょう。しかし一方で、オンライン上では決して得られないもの、育むことができないものもあるのだろうと思います。

茶の湯は、人と人がまさに「密」に接し、いろいろなものを「共有」するなかで亭主と客、また客同士の結びつきが深められるものです。茶室という空間において亭主と客とが膝を突き合わせ、同じ時間、同じ場所を共にすることで、一服のお茶を通じた心の交流が生まれるのです。

インターネットやSNSの普及によって、人と人がいつでもどこでも手軽につながる事ができる、そうした現代だからこそ、一回の出会いを大切に茶の湯の心がより必要なものとして認識されるのだろうと考えています。

しかし、感染症による不安と共存していかなければならない今の状況下において、そのことを追い求めることは率直に言って難しいと言わざるを得ません。こうしたなかでの稽古や茶会については、参加者が心身両面において「安心」してのぞむことができるということがなによりも優先されるべきですし、そのための配慮は当然あって然るべきでしょう。

同門社中の皆さま、そして日ごろから茶の湯を嗜んでおられる皆さまにとっては、思うように稽古ができない、茶会にも参加できないという日々がもうしばらくは続くのかもしれない。しかしこのような時にこそ日常から茶の湯の心を胸にとどめ、相手を思いやる気持ち、お互いが支え合う気持ちを忘れないでいただきたいと思うのです。心までが感染してしまうことのないよう願っています。

令和二年五月二十七日